第二章　三多摩分離問題

第一節　三多摩地域移管の基本要綱

一五〇　神奈川県下西北南多摩三郡の東京府管轄替の要領

神奈川県下西北南多摩ノ三郡ヲ東京府管轄ニ更替スルノ要領

此更替ヲ促ス原因一ニシテ足ラズト雖トモ主トシテ此議ノ起リタルハ多摩川上水々路ノ便益ニ関スルモノ是ナリ抑モ東京市街飲用供給ノ第一タル玉川上水ハ源流遠ク山梨県甲斐国北都留東山梨両郡并神奈川県下武蔵国西多摩郡ニ発シ全県北多摩郡ヲ貫通シテ東京ニ入ル其延長凡廿七里トス夫レ東京ノ地タル聳嶽ノ下百貨ノ輳ル所百有余万市民ノ生息スル大都会ニシテ今ヤ世ノ進運ニ随ヒ生活上最モ必要ナル水道改良事業ニ着手シ日ヲ追テ其歩ヲ進ムルニ当リ深ク将来ヲ慮リ之カ経画ヲ要スルモノハ水源涵養如何ト水路取締如何ニ在リ其ノ次ハ人民関係上ノ便利ヲ得ルト往来交通物貨運輸上ノ捷路ヲ開クニ存セリ請フ是ヨリ其得失ノ在ル所ヲ略陳セン

水源涵養ノ事タル方今最モ急務中ノ急務ニ属セリ何トナレハ水量ノ需用日々ニ多キヲ加フルアルニ之カ水源ハ次第ニ涸渇シ水量ハ弥々減殺スルノ実アリ従来此ノ上水々量ハ羽村堰入口ノ平量毎秒時四百四十一立方尺ニシテ上水路ヲ経テ本市ニ達シ其残余ハ上水路左右十九ケ所ニ分水シ五郡五十余ケ村ニ供セリ今回水道改良ノ設計モ亦之ニ標準ス然ルニ近年減水甚シク独リ定量ヲ得難キノミナラズ明治二十一年二月ノ如キハ多摩川本流ニシテ僅々百八十立方尺即チ上水平量ノ半ハニモ及バサリシコトアリ又客年春季ノ如キモ定量二分ノ一マテ減少セシコトアリ水源改良大事業漸ク就リ不幸大減水ノコト有ラシメンカ百事為メニ廃セン是レ今日ニ於テ水源涵養ノ方法勉メテ之ヲ講究セサルヘカラサル所以ナリ

水源ヲ涵養シ水量ヲ増スハ東京市街飲用水料ノ為メノミナラス上水沿岸五郡五十余ケ村ノ休戚ニモ関セリ若非常ニ減水スルニ遭ハヽ止ヲ得ス市街灌用飲料ノ幾分ヲ減殺シ以テ一時市内ノ急需ニ応セサルヲ得ス此時ニ当リ水樋口ヲ閉鎖スル等ノコト有ラバ為メニ困難ヲ被ルモノ決シテ尠少ニアラサルヘシ是レ実ニ水源涵養ノ方法ヲ忽ニスヘカラサルモノタリ

水源涵養ノ事果シテ如何聞ク往時ニ在テハ一定ノ輪伐法アリ年々交互平均ニ伐採シ栽植ニ怠ラシメス慣習上自然ノ涵養林タリシト維新

©神奈川県立公文書館

後古制止ミ新法未タ布カレサルニ方リ一朝林伐ノ価額ヲ得ハ樹齢ノ少長ヲ問ハス競フテ濫伐シ復タ種栽造林ニ意ナク儘マ荒廃ニ属シ延テ異常ノ減水ヲ見ルニ至ル個ハ連年水量実測表ニ於テ明カニ示ス所ナリ

民林ヲシテ涵養林タラシムルコト固ヨリ容易ニ行ハレ難シト雖トモ能ク其流域ヲ究メ雨量気候土壌地勢樹種等一々之ヲ調査シ水源止砂支石防雪等ノ為メ要用ナル個所ハ水道属林トシテ買収シ之ヲ保護スルカ或ハ国土保安林ニ組込ムカ其宜シキニ随テ適当ノ制ヲ設ケサルヘカラス

東京市ノ戸口月ニ日ニ増加シ加之工業製造ノ発達著シキモノ有リ此勢ヲ以テ推移セハ弥々多量ノ用水ヲ消費スルニ至ラン

幸ニ水源涵養宜シキヲ得ルモ個ハ将来ニ期スヘキノミ今時ノ如キ屢々減水ノ災厄ニ遭ハヽ為メニ名状スヘカラサル困難ヲ来サン是等ノ点ニ於テモ予防ノ方法ヲ講シ保護林ノ制ヲ立ルト同時ニ水源深林中ノ渓澗ヲ撰択シ数ケ所ノ貯水池ヲ設備シ冬季田圃ノ分水ヲ要セサル場合ニ於テ雨雪又ハ河水ヲ集貯シ以テ夏時非常ノ変ニ備フルノ計ヲ為サヽルヘカラス上水流域取締上ニ於テモ猶水源涵養ニ於ルカコトク暫クモ猶予為シ難キモノ多シ夫レ多摩川上水タル固ヨリ善良ナル水質ナリト雖モ二十有余里ノ長キヲ廻転注下シ其間ニ於テ或ハ汚瀆ノ混淆ナキヲ知ランヤ然ルニ此流域タル其管轄庁ヲ異ニスルヨリ未タ適当ナル方法ヲ得サルモノ多シ既ニ明治十九年虎列刺病流行ノ時ノ如キ神奈川県西多摩郡長淵村〔羽村上水引入口ニ対スル上手ノ村落〕ニ虎列刺患者ノ汚穢物ヲ放下シタルモノアリトノ急報ニ接シ本市ハ固ヨリ宮内省ノ如キモ御用水ニ万一ノ変アランコトヲ恐レ非常ノ奔走急遽ニ下流ヲ横断シ辛フシテ害毒ヲ侵入セシメサリシト雖モ是レ僥倖ニシテ免レタルモノ思フテ此ニ至レハ今ニ於テ寒心ス是レ平時ニ於テ取締法ノ行届カサルニ依ラスンハアラス

方今東京府ノ管スル所ハ羽村以下久我山ニ至ル五里内外ニ止マリ夫スラ上水敷地数歩ノ内ニ過キス上水敷地以外及引入口以上ハ挙テ神奈川県ノ管轄ニ委スルヲ以テ監督取締ノ効果決シテ十分ヲ望ムヘカラス若夫レ非常必要ニ際シ東京府令警察令等ヲ発シ禍害ヲ未崩ニ防カントスルモ如何セン他管人民ヲシテ之ヲ遵守セシムルノ困難ナル常ニ隔靴ノ憾ナキ能ハサルナリ

汚瀆防止ノ事ニ於ケル至難ノ業ニ属スト雖モ事固ヨリ放擲スヘカラス宜シク漸ヲ以テ之カ改正方策ヲ講習スヘシ試ニ其梗概ヲ挙クレハ

人蓄ノ排泄物又ハ蓄積セル廃棄物ヨリ発生スヘキ多量ノ有機質ヲ混淆セシメサル事

下水ノ河流ニ排出スルヲ防止スル事

©神奈川県立公文書館

狭山池助水ヲ処分スル事
上水土揚敷兼用道路ヲ敷地外ニ移ス為メ土地ヲ買上クル事
水汲場ヲ改修スル事
水路ノ架橋ハ補助費ヲ給シ橋脚ヲ省カシムル事
水番人詰所数ケ所ヲ増設スル事
是等数件其着手ニ順序アルヘキモ予メ成功ヲ期スヘキモノナリ而シテ土地買上ノ如キ河流排出物防止ノ如キ其他多クハ是レ管轄一ニ帰シ制令岐分セサル時ニ非ラサレハ行ヒ易カラサルナリ
東京府警視庁ヨリ水道ニ関シ屢々令達アリテ其取締殊ニ厳密ナリ而シテ其事ノ上流水源ニ及ハサルハ啻ニ事ノ欠典ノミナラス或ハ本ヲ捨テ末ヲ収ムルニ似タルノ慨ナキ能ハサルナリ
以上水源涵養流域取締ノ方法ハ実ニ百世ノ長計ヲ立ルモノニシテ又一日モ後ルヘカラサルモノナリ
上水線路大率西北多摩二郡ニ連亘シ分水関係ノ町村甚タ多シ而シテ羽村堰通筏ノ如キ上水架設ノ橋梁修覆ノ如キ上水敷兼用道路修理ノ如キ悉ク東京府庁ニ出願スヘキモノニシテ故ラニ神奈川県庁ヲ経由シテ之カ許可ヲ求ムルハ実ニ無用ノ手数タリ之ヲ一管ニ帰スルトキハ其煩ヲ取ラスシテ可ナリ加フルニ彼我ノ情意通セサルヨリ用水取入口工事等ニ対シテモ時トシテハ苦情ヲ唱フルアリト其他種々ノ事情モ管轄ヲ同フスルトキハ自ラ融解セン殊ニ地形上ヨリスルモ物産販売上ニ於ケルモ其大概ハ便利ヲ得ルモノ多カラン
南多摩郡ハ上水流域ノ事ニ関セスト雖トモ西北多摩二郡ト多摩川ヲ融テヽ境界ヲナシ治水上ノ関係ニ於テ分離スヘカラサル地勢ニ在リテ居常其赴ク所ヲ同フセリ已ニ西北二郡ニシテ東京府ニ帰スルモノトスレハ固ヨリ南多摩郡ノミヲシテ独リ他ニ往カシムヘキモノニアラス蓋シ民意ノアル所モ亦均シク他二郡ト進退ヲ共ニスルニアラン加之南多摩ノ各町村タル西北多摩二郡ト共ニ其物産ハ大抵東京府ニ輸入シ其産額少小ニアラサルナリ
上来水利処分上一管轄ノ下ニ帰スルノ便益アルヲ認メタリ而シテ此境域変更ノ為メ地方経済ニ於テハ如何ナル異同ヲ生セシメ如何ナル損害ヲ与フルヤノ恐レアランカ然ルニ此三郡ノ地タル東京府管轄ニ属スル東多摩郡ト合セ旧多摩一郡ノ地ニシテ形勢習俗倶ニ相似西北二郡ハ水路沿岸ニ在リ東京ニ接シ南多摩郡ノ地ハ甲州街道ニ沿ヒ物産ノ販路ヲ東京ニ取ルヲ以テ運輸極メテ頻繁ナリ寧ロ利便ナルモ決シテ不便ナケン
今地方経済ノ点ニ就テ両管下ノ地方税賦課額ニ於ケル孰レカ多クシテ孰レカ少ナキヤヲ按スルニ又大差ナシト云フテ可ナラン単ニ地方税ノ一戸当リヲ以テスルトキハ稍ヤ東京府ニ於テ多キヲ見ルモ是ハ

©神奈川県立公文書館

東京府ニ於テハ其土木費ノ如キ町村費ヲ省キテ地方税ニ移シ神奈川県ニ於テハ全ク之ニ反セリ彼レニ少フシテ此レニ多キモノアリ此レニ少フシテ彼レニ多キモノアリ其詳細ニ至リテハ別ニ記スル所ノモノアルヲ以テ委ニ之ヲ省ク

東京府
神奈川県地方税町村費賦課額比較表

種目	東京府郡部総計金額	一人当	神奈川県郡部総計金額	一人当	比較	増減
第一表 地租割、営業税雑種税、戸数税	円 二五四、四三七	円 四七五三	円 三三九、九八六	円 三六四三	東京府増	円 三一〇
第二表 町村土木費	二一〇、三〇四	〇六二四	一四七、八七九	一六六四	仝減	〇四四〇
第三表 町村土木補助費	二、八六六	〇三六四	六四、六三四	〇七二七	仝減	〇三六三
第四表 郡部ニ属スル警察費、国庫下渡金	三八、七六三	一一九二	二一、八六四	〇一三三	仝増	一〇五九
	二、三〇九		三〇三			

地方税ハ東京府ノ方ハ神奈川県ヨリ増ス然レトモ町村費ハ神奈川県ノ方反テ東京府ヨリ増ス割合ナリ

右ノ通リナルヲ以テ本表ニ拠リ計算スルトキハ

東京府ハ地方税町村費　一人ニ付　五拾七銭四厘

神奈川県ハ同　仝　五拾銭三厘三毛

即チ東京府ヨリ神奈川県ノ減スルモノ七銭七毛ナリ

然ルニ郡部ニ属スル警察費国庫下渡金ハ

東京府ハ一人ニ付　拾壱銭九里弐毛〔凡十分ノ九〕

神奈川県ハ一人ニ付　壱銭三厘三毛〔凡十分ノ一〕

右ノ如ク国庫補助費ハ東京府ニ於テ利益スルモノ一人ニ付拾銭五厘九毛ナレハ東京府ノ地方税町村費ノ負担増額壱人ニ付七銭七毛ヲ警察費国庫下渡金ヨリ控除スルモ尚ホ東京府ノ人民ハ神奈川県人民ノ負担額ヨリ一人ニ付三銭五厘二毛ノ軽税ナリトス

但東京府ハ数年ヲ期シテ監獄建築ヲ起スニ当リ一ケ年六万円ヲ地方税ヨリ支弁セシモ此工事ハ廿六年度ニ於テ全ク落成スルモノナルヲ以テ本表ニハ之ヲ省ク

（「小柳家資料」立教大学蔵）

（注）東京都公文書館所蔵資料に同様のものがある。

一五一　多摩三郡の管轄替に関する東京府知事富田鉄之助の上申

東京市街飲用供給ノ第一タル玉川上水ハ源流遠ク山梨県下甲斐国北都留郡神奈川県下武蔵国西多摩郡ニ発シ、同県北多摩郡ヲ貫通シ東京ニ入ル、其流域二十有余里ニシテ、内神奈川県内ニ属スルモノ十里ニ下ラズ。又其上水水量ハ羽村堰入口ノ平量毎秒時四百四十一立方尺ニシテ、上水路ヲ経テ本市ニ達セシムルモノトス。其残余ハ上

©神奈川県立公文書館

水路左右十九ケ所ニ分水シ、五郡五十余ケ村ノ合併前数ニ供ス。是従来ノ割合ニシテ水道改良ノ設計亦之ニ同シ。然ルニ近年水源往々涸渇シテ定量ヲ得難キノミナラズ、明治二十一年二月ノ如キ多摩川本流僅ニ百八十立方尺即チ上水平量ノ半バニモ及バズ、今春ノ如キ亦定量ノ二分ノ一迄ニ減少セリ。是等ノ場合ニ会スレバ、或ハ市外灌田飲料両用水ノ幾分ヲ減殺シ、又ハ場合ニ依リ分水樋口ヲ閉鎖シテ僅ニ市民ノ需要ニ応セシムル等ノコトアリ。是畢竟已ムヲ得サルノ慣行手段ニ出テ、一時ノ急ヲ済フニ過ギズ。

抑々多摩水源ノ由テ来ル所、渓谷ヲ廻リ林野ヲ横切リ、幾多ノ細流数方里ニ亘リ、而シテ其地大半ハ民有ニ属セリ。従テ之カ民林栄枯繁凋ノ影響ヲ被ムル事頗ル大ナルヲ免レズ。況ンヤ流域監督上東京府ノ自ラ施行スル所ハ羽村以下久我山ニ至ル五里内外ニ止リ、夫スラ上水敷地数歩ノ内ニ過キズ、上水敷地以外及引入口以上ハ挙テ之ヲ神奈川県ノ管轄ニ委スルヲ以テ、監督取締ノ効決シテ十分ヲ望ム可カラズ。縦令東京府令警察令等ヲ発スルコトアルモ、他管人民ヲシテ遵守セシムルノ困難ナル、常ニ隔靴ノ憾アリ。令事例ヲ近キニ挙グレバ、去ル十九年虎列刺（コレラ）病流行ノ時ノ如キ、神奈川県下西多摩郡長淵村（羽村引入口ノ上流）ニ於テ患者ノ排泄物ヲ放下シタルモノアリトノ急報ニ接シ、東京府ハ固ヨリ宮内省ノ御用水ニ於テ万一ノ変アランコトヲ恐レ、非常ノ警察ヲ以テ下流ヲ横断シ、辛ジテ毒水ヲ府内ニ注入セシメサルヲ得タルモ、要スルニ稀有ノ僥倖ニ属シ、常ニ期シ得ヘカラサル事タリ。何トナレバ流域ノ同一ナルニ拘ハラス其上下管轄ヲ異ニスルノ結果ハ、一旦変ニ際会スルモ決シテ緩急其宜キニ応セシメ難シ。而シテ平日ノ監督ニ付テモ、羽村堰通筏ノ如キ上水架設ノ橋梁修覆ノ如キ、上水敷兼用道路修理ノ如キ、一トシテ神奈川県ヲ経由シテ更ニ東京府ニ出願スルノ煩ヲ取ラサルヲ得ズ。官民ノ不便亦少ナカラズト謂フベシ。是他ナシ神奈川県ニ在テハ、固ヨリ水源ノ為メニ特種ノ吏員ヲ置ノ必要ナク、従テ其取締ハ之ヲ東京府ノ自ラスルニ比シテ、精粗ノ差アルヲ免レサルハ已ムヲ得サルノ情勢ト云フベシ。其国土保安ニ関スル森林中往々荒残甚シクシテ早晩水源涸渇ノ虞アルヲ見ルモ亦深ク咎ムルヲ得ザルベシ。然レドモ多摩沿岸ノ森林中採伐ノ法其宜シキヲ失セシ痕アルモノ少カラサルニ至テハ、決シテ擱キ難キ儀ニ有之。故ニ大将水源ノ涵養及衛生上ノ利害ヲ考察シテ之ヲ東京府一監督ノ下ニ属セシメラレ、以テ水上水下諸般ノ取締ニ遺憾ナキヲ得セシメラレ度、蓋シ府県ノ境界ヲ変更スルハ地方ノ経済ヲ変動シ事体決シテ軽小ニアラズト雖モ、此ノ沿岸二郡ニ在テハ其形勢及習俗ヨリ観ルモ決シテ東京府ニ併セ難キニアラズ、尤南多摩郡ノ如キハ水道ニ関係ナキガ如クナルモ、元是

©神奈川県立公文書館

同一郡ニシテ、後東西南北ノ四郡ニ分割セシモノナレバ、民情習俗ノ同一ナルハ固ヨリ、其地勢ノ如キモ甲州街道ニ沿ヒ百貨ノ運輸等総テ東京ト其利害ヲ倶ニセリ。

如之甲武鉄道等ノ延長ニ伴フテ東京府下ノ来往一層利便ヲ来タシ、之ヲ神奈川県下ニ比スレバ其便否霄壤ノ差アリ。今日ニ於テハ神奈川県ヨリ三郡ニ往来シ、三郡ヨリ神奈川県ニ往来スル、都テ路ヲ東京府下ニ取ルノ実況ニ有之候。惟フニ之ヲ上ニシテハ帝室ヲ始トシ奉リ、之ヲ下ニシテハ市民ノ生活上最モ必要ナル水道改良事業ハ日ヲ逐フテ其歩ヲ進ムルノ今日ニ於テ、将メ状来ノ利害ヲ研究シテ永ク水源涸渇ノ虞ヲ絶チ、併セテ衛生ノ安全ヲ図ルハ実ニ已ムヲ得ザルノ急務ト存候条、神奈川県下西多摩・北多摩・南多摩ノ三郡ヲシテ東京府ニ管轄替ノ儀、至急御允裁仰キ度、神奈川県知事ト事務上其他実際ノ便否等屢々熟議ヲ遂ゲ候上、警視総監ニモ内議ヲ尽シ、此段謹ミテ及上申候也。

明治二十五年九月廿日

東京府知事　富田鉄之助

内務大臣伯爵　井上　馨殿

（「神奈川県会史」第二巻）

一五二　多摩三郡の管轄替に関する警視総監園田安賢の上申

頃日東京府知事ノ内議ニ依リ神奈川県下西北多摩両郡ヲ東京府ノ管轄ニ移更ノ儀、小官ヨリモ上申致置候。今又南多摩郡ヲモ併セ移スノ儀、同知事ヨリ内議有之、依テ審按スルニ夫ノ西北多摩ノ両郡ト雖モ、単ニ警察事務ノ上ヨリ推考スルトキハ将来幾多ノ不便ヲ来タス恐ナキニ非ザレドモ、元来其地盤タル玉川上水水源并ニ通水路ニシテ、府下利害ノ関係最モ重キ事由ニ属シ、之ヲ移更スルノ必要アリタルニ付、多少警察事務上ノ不便ノ如キハ之ヲ忍フコトト為シ、与ニ上申致シタル次第ナルニ、今此ノ南多摩ニ至リテハ是等重キ事由ノ存スルニ非スシテ、警察事務上ノ不便ハ固ヨリ治獄ノ点ニ於テモ亦幾多ノ困難ヲ来スベク、小官ニ於テハ敢テ其移更ヲ希フノ意、夫ノ西北多摩両郡ノ如ク切ナラズト雖モ、又之ヲ地理人情ノ相均シキ点ヨリシテ、再考スルトキハ、独リ南多摩郡ヲノミ神奈川県ニ依然タラシムルハ、行政区画ノ体面上或ハ穏当ナラサル嫌アリテ、而カモ人民ノ利便ハ移更ノ方ニ多カルヘクト考ヘラルルニ付、是亦東京府知事ノ意見ニ同シ小官ヨリモ御允可ノ儀及上申候也。

（「神奈川県会史」第二巻）

©神奈川県立公文書館

一五三　多摩三郡の管轄替に関する神奈川県知事内海忠勝の内申

東京府現在水道ノ義ハ其初承応年間ニ起リ、降テ今日ニ至リシモノナレドモ、元来旧政府ノ御用タリシヲ以テ、其間曽テ物論ヲ生シタルコトヲ聞カズ。維新後東京府之ヲ管理シ、其事業ヲ継続スルニ至ルモ、旧政府ノ余勢ト其因襲ノ久シキトニ依リ、敢テ甚シキ苦情ヲ唱フルニ至ラザリシガ、爾来世態ノ満ク変遷スルニ従ヒ、大ニ其状況ヲ異ニシ、水路関係ノ町村等漸次之ニ着目スルノ実況ヲ露ハスニ至レリ。殊ニ前日ニ在テハ府県ノ管理セルモノモ、今ハ一転下ヲ東京ノ市ノ有ニ帰シタルヲ以テ、今日ニシテ夫々将来ノ為メ慮バカラザルヲ得ザル場合ト相成候。抑多摩川上水ノ其線路大率神奈川県西多摩・北多摩ノ二郡ニ連亘スルヲ以テ、之レニ関係ノ町村亦尠ナカラズ、已ニ大字羽村ニ設置シアル用水取入口工事ニ対シテハ、前年来神奈川県民ノ苦情ヲ唱フル所ニシテ、之ヲ略言スレハ田養運搬ニ必要ノ水量ハ多ク上水堀ニ吸入セラレ、洪水ノ時ノミハ之ヲ放流シテ神奈川県下ノ害ヲ為スノ実況ヲ訴フルモノニシテ、随テ該近傍ニ上水ノ為メ必要ノ工事等アル毎ニ神奈川県民ハ之ニ対スル苦情ヲ引起シ、其ノ都度幾分ノ障害ヲ来シ、而シテ右等ノ苦情逐年多キヲ加フル傾向ニ付、漸次歩ヲ進メ、将来用水ニ架設セル数多ノ橋梁費又ハ本川ノ堤防費等ヲ東京費税（ママ）ニ求メ、或ハ洪水旱魃等ノ場合種々ノ苦情故障ヲ唱ヘ行政上紛雑ヲ惹起シ、両庁ニ於テモ益困難多事ニ立至ルベキハ無疑事ト存候。是等ノ場合ニ於テ其水路ニ管轄ニ渉ルヲ以テ、彼是差縺レヲ生ジ、随テ其処分亦容易ナラザルベクト存候。依テ改メテ之ヲ一管轄ノ下ニ帰セシムトキハ、右等ノ困難モ幾分之ヲ予防スルヲ得ベク、又水源ニ関スル山林ノ処分ヨリ上水全水路ニ渉ル諸般ノ処務ニ至ルマデ、悉ク一轍ニ出ヅルヲ以テ、其地勢風俗人情ヲ審按スルニ、元来多摩郡ハ非常大郡ナリシモ、後ニ之ヲ四分シ、現今西南北三郡ハ神奈川県ニ属シ、東ノ一郡東京府ニ属セリ。而シテ上水線路西北東三郡ヲ連貫シ、南一郡ハ之ニ関セザルガ如シト雖モ、多摩川本流ハ南北多摩ノ境界ヲ為シ、治水ノ関係上離スベカラザルノ地勢ナルハ勿論、風俗人情等ヲ同フシ、且従来互ニ結托シ居ルノ実況ニ付、西北二郡ヲ東京府ニ属シ、南一郡ノミ管轄ヲ略ニスル如キハ、民意ニ適セザル義ニシテ、殊ニ三郡ヲ以テ一ノ衆議院議員選挙区ニ定メアルニヨリ、是等事情ヨリシテ南多摩郡ノ義モ西北多摩郡ト併セテ同ク一管轄ノ下ニ帰セシムル方、至当ノ処分ト被存候ニ付、神奈川県・西多摩・北多摩及南多摩ノ三郡ヲ割ヒテ、東京府ハ目下僅ニ五郡ニ付、此ノ三郡ヲ加フルモ、其区域広濶ニ失

©神奈川県立公文書館

スルノ憂毫モ無之義ト相考候。依テ将来両庁間行政上ノ利便ヲ謀リ、前件ノ御処分アランコトヲ冀望シ、両庁協議相整候義ニ付至急何分御詮議相成候様致度、関係書類相添此段及内申候也。

（「神奈川県会史」第二巻）

第二節　賛成派　反対派の動静

一五四　多摩三郡有志者の境域変更法律案賛成陳述書

東京府神奈川県境域変更ニ関スル法律案ニ賛成スル理由左ニ陳述致シ候

今般政府ヨリ帝国議会ヘ提出セラレタル西多摩南多摩北多摩ノ三郡ヲ分轄シテ東京府管下ニ属セシムル法律案ハ至極適当ニシテ三郡人民ノ宿望スル所ナリ然ルニ聞ク所ヲ以テスレハ少シク之ニ反対ヲ試ムルモノアリト斯ル明著ナル大理由ノ存スル所大勢ノ帰スル所其事ノ行ハル可キ敢テ喋言ヲ要セサル可シ故ニ我々ハ之カ弁解ヲ須ヒスシテ単ニ我々郡民ノ夙ニ希望シテ已マサル要点ヲ略述シ以テ当路者及他大方ノ留意ヲ請ントス

此三郡ノ地タル現今ノ管轄境域ヲ以テスル時ハ其北部ニ位シ甲州街道ニ沿リ往来シ物産運輸モ陸路ヨリ東京ニ出タス是ヲ以テ他ノ郡市ト痛痒ヲ異ニシ管轄ヲ共ニスルハ啻ニ其不便ヲ感スルノミナラス無用ノ財ト無用ノ時間ヲ費ス恐レ有リ

之ヲ東京府管下ニ移サンカ其郡市ト直接ノ関係ヲ有スルモノ多ク便益得ル所実ニ莫大ナリトス

三郡ノ地ハ東京府管下東多摩郡ト元ト一郡ノ地ニシテ利害感情ヲ同フスル所其荏原郡ニ於ルモ多摩川一帯ニ沿ヒ流域ヲ共ニシ水利ノ便運輸ノ利倶ニ之ヲ同フセリ従前ニ於テ既ニ此ノ如シ是ヲ以テ郡民屢管轄替ヲ請願シテ已マサリシ矧シテ今日ニ於テハ諸物産大ニ開ケ其販路ハ悉ク之ヲ東京ニ取レリ特ニ甲武鉄道開通以還ハ大ニ形勢ヲ改メ彼我ノ間往来織ルカ如ク旦暮相接セリ

若現今ノ儘ニテ更替スルナキカ三郡人民ハ常ニ道ヲ東京ニ取リ更ニ神奈川県庁ニ至ルノ不便アリ横浜ノ地タル繁昌ナルモ元ト是レ互市場ナルヲ以テ直接ノ関係アル稀ニ見ル所ニシテ東京ノ密接ナル関係アルニ同シカラス

然ラハ三郡人民ハ単ニ管轄庁ノアルヲ以テ此辺遠ノ地ニ往カサルヲ得サルノ不便ヲ受ク其不便ハ暫ク忍フヘクモ無用ノ時間ト無用ノ費ヲ費スニ於テハ人民保護上国家経済上之ヲ更替スルノ必要アル固ヨ

©神奈川県立公文書館

リ論ナカルヘシ
郡民ノ便不便前述ノ如シ而シテ官吏郡村吏ニ至ル迄常ニ迂路ヲ取テ往来スルノ不便アリ
其他諸官衙裁判上学校教育上諸般ノ衛生上親族交際上ノ事皆悉ク東京府管轄ノ下ニ属スルヲ希望スルノ原因ヲ為スモノナリ而シテ地方経済ノ点ニ於テ地方税町村税ニ於テ却テ東京府ニ属スルノ軽減アルヲ見ルモノトスレハ断シテ今日ヲ以テ此更替ヲ為スノ大時機ナリト信セリ
願クハ公平至当ノ議ヲ以テ速ニ該法律案ノ通センコトヲ此ニ総代ノ名印ヲ記シ郡民希望ノ誠意ヲ表シ候敬白

神奈川県西多摩北多摩南多摩
三郡有志総代

明治廿六年二月二十三日

砂川源五右衛門　下田遊亀蔵
吉野泰三　渡辺九一郎
指田茂十郎　内藤次左衛門
内野杢左衛門　花形長之助
西山政重　串田儀八
中村半左衛門　平林定兵衛
岸宇左衛門　忍足常吉
渡辺武四郎
小柳九一郎
矢島次郎左衛門
清水浩平
糟谷良甫
田村半十郎
紅林徳五郎
外千五百七十九名

（「三多摩郡引継書」（明治二六年）東京都公文書館蔵）

（注）立教大学所蔵資料に同様のものがある。

©神奈川県立公文書館

一五五　境域変更の賛成調印取消要求

調印取消

先般神奈川県西南北多摩郡ヲ東京府ヘ境域変更ノ法律案ニ賛成ノ調印ヲ致シ候処能々其利害得失ヲ勘考スルニ尤該法律案ハ不利益ナル者ニ付過般ノ調印ハ全ク誤リタルモノナレハ其調印ヲ取消候也

神奈川県北多摩郡中藤村四千二百五番地平民農　榎本利亮
同県同郡同村三千四百六十三番地平民農　川島秀之助
同県同郡岸村三百五十八番地平民農　諸江吉五郎
同県同郡三ツ木村七十七番地平民農　比留間栄太郎
同県同郡同村千二百九番地平民農　増尾健次郎
同県同郡同村六百四十六番地平民農　山崎七右衛門
同県同郡岸村三百九十番地平民農　荒田鉄太郎
同県同郡三ツ木村平民農　進藤周輔

本日発兌ノ貴社新聞ヲ閲スルニ有志総代ノ意見書ト題シ東京(府脱)及神奈川県境域変更ニ関スル法律案ニ賛成スル理由書ト題スル書面ヲ掲ケ其末尾ニ小生ノ姓名ヲ記入有之候得共小生ハ決シテ如斯書面ニ署名シタルコトナク却テ該法律案ニハ反対ノ意見ヲ有スルモノニテ現ニ該法律案撤回ノ請願ニ署名シタル一人ニ候間此全文ヲ掲ケ御取消有之度候

明治二十六年二月廿四日　西多摩郡西多摩村　指田茂十郎

毎日新聞社御中

貴社新聞第六千六百七十九号ニ東京府及神奈川県境域変更ニ賛成スル理由ヲ登載為サレ其有志者総代之内ニ小生ノ名モ列記シ有之候得共小生ハ素ヨリ右賛成之理由ニ同意ナル者ニ無之候故総代トナリタル義更ニ無之候間宜敷御取消被下度候也

明治廿六年二月廿四日　神奈川県西多摩郡福生村第六百廿六番地　田村半十郎

©神奈川県立公文書館

毎日新聞社御中

（飯田助丸氏蔵）

一五六　神奈川県有志の境域変更賛成主意書

東京府及神奈川県境域変更ニ関スル法律案ヲ賛成スル主意書

今回政府ハ神奈川県北多摩郡西多摩郡南多摩郡ノ三郡ヲ割ヒテ東京府ニ合セシムルノ法律案ヲ衆議院ニ提出セラレタリ而シテ其境域変更ヲ要スル理由ハ政府ノ理由書ニ詳ナレハ今更喋々ヲ要セズ然ルニ右三郡中ノ一派并ニ各郡ニ反対運動ヲ為スモノアリ其理由トスル所左ノ如シ

第一　東京府ト神奈川県三郡トハ地勢人情風俗ヲ異ニスルコト

第二　東京府ト神奈川県トハ地方税ノ負担ニ差異アリテ三郡ヲ東京府ニ編入スルトキハ三郡人民ハ其負担ニ堪ヘサル事

第三　三郡ヲ東京府ニ編入スルトキハ神奈川県地方経済ニ異動ヲ生シ全躰ノ為メニ地方税ノ負担ヲ重カラシムルコト

第四　東京府水道改良事業ニ対シ境域ノ変更ハ必要ナリト云フモ数百年ノ今日ニ至ル迄著シキ害アリシヲ見ズト云フコト

第一　境ヲ出ヅレハ地勢人情ノ異ナルハ免レザルノ数ナリ三郡ノ東京府ニ対スル地勢人情ノ異ナル点ヲ謂ハヾ三郡ノ神奈川県各郡ニ対スル地勢人情モ亦異ナリト謂ハザルヲ得ズ神奈川県各郡ハ概略平地坦途従テ収利多シ三郡ハ之ニ反シ山嶽原野多ク沃土少シ而シテ其地形孰レモ甲州街道ニ沿ヒ互ニ利害ノ関係ヲ共通シ殊ニ甲武鉄道布設ニ従ヒ両地ノ来往一層ノ利便ヲ得現今神奈川県ニ往来スル者ト雖トモ先ヅ途ヲ東京ニ取ルノ実況ニシテ地勢自然ノ宜キヲ得ルモノナリ其人情風俗ノ如キ従テ東京府ニ近シト謂ハザルヲ得ズ況ンヤ三郡ハ固ト東京府ノ管轄ナリシニ於テオヤ

第二　三郡ヲ東京府ニ編入スルトキハ三郡人民ノ負担ヲ重クストノ理由ハ地方税ノ一面ヲ見テ他ノ方面ヲ見ザル人ノ言ニシテ町村税ニ至リテハ神奈川県ノ方遥カニ東京府ヨリモ多シ其ハ東京府ニ於テハ郡市町村ノ負担スベキ土木費ハ成ルベク町村税ヲ省キテ地方税支弁トスルノ慣例ニシテ神奈川県ノ慣例ハ全ク之ニ反シ却テ成ルベク地方税ヲ軽フセントスルニアリ故ニ之ヲ平均スルトキハ其大差ナカルベキヲ信ズ

第三　三郡ヲ東京府ニ編入スルモ一県ノ経済ニ大関係ヲ生ジ地方税ノ負担ヲ重カラシムルノ虞ナシ反対者ノ云フ如ク三郡ハ土地僻陬ニシテ収利少ナキヲ以テ地方税ノ負担モ亦多カラザルハ明ナル事実ナリ殊ニ多摩川治水費ハ県下三大川中其支出額第一ヲ占ムルモ

©神奈川県立公文書館

ノナレハ他ノ各郡ハ三郡ノ為メニ却テ負担ヲ重クスルノ事実ナレハ三郡ヲ東京府ニ編入スルトキハ却テ一県ノ経済上負担ヲ軽クスルノ結果ニ至ルベキナリ

第四　東京府水道改良事業ニ対シ境域異ナリト雖モ著シキ害アルヲ見スト云モ現ニ政府ノ理由書中ニモアル如ク去ル明治十九年中コレラ患者ノ排泄物ヲ西多摩郡ノ某村ニ於テ上水中ニ放棄シタルカ如キハ今ヨリ追想スルニタニ思ハズ寒心ニ堪ヘザルモノアリ是其境域ノ異ナルヨリシテ自然衛生上ノ取締立タザルニヨル加之樹林濫伐ノ為メ水源ノ年々涸渇スルガ如キハ其境域ノ異ナルヨリ起ルノ弊害ナリトス

以上列記スル所ニヨレハ政府案ニ反対スルノ理由ナキヤ明カナリ生等ハ国家上ヨリスルモ地方上ヨリスルモ其不可ナル理由ヲ発見スルコト能ハズ是レ該法律案ノ議会通過ヲ希望スル所以ナリ

神奈川県有志者　姓名は裏面ニ記ス

（裏面）

神奈川県有志総代

高座郡　菊地小兵衛　伊東祐吉
川井考策　榊原善政
高橋伊三郎　飯田弥亮
山宮藤吉　高橋留吉
橘樹郡　飯田彰重　白井勝悟
鎌倉郡　松本良太郎　愛甲郡　石川淑
三浦郡　戸井嘉作　大矢武平
前田善太郎　梅沢董一
久良岐郡　平沼九兵衛　高部源兵衛
横浜市　矢野祐義

（「小柳家資料」立教大学蔵）

（注）飯田助丸氏所蔵資料、東京都公文書館所蔵資料に同様のものがある。

一五七　北多摩郡有志の境域変更賛成請願

境域変更之義ニ付請願

神奈川県北多摩郡左ノ者儀奉請願候今般西多摩郡北多摩郡南多摩郡ノ三郡ヲ東京府へ合セシムル法律案ヲ政府ヨリ提出セラレ右ハ農工商百般ノ業務大ニ利便ヲ得且衛生ニ治水警察悉東京府ノ所轄ニ無之テハ甚タ不都合ニ有之依テ私共従来ノ宿願ニ御座候間該案速ニ御院ニ於テ御通過相成候様謹テ奉請願候以上

明治廿六年二月廿五日

©神奈川県立公文書館

右之請願書本日左記ノ連名ヲ以テ衆議院ニ呈出セリ

北多摩郡東村山村
町田　六右衛門
外廿六名

同郡田無村
下田太郎右衛門
外廿七名

同郡久留米村南町
藤宮兵蔵
外二百廿名

同郡武蔵野村
安藤大助
外七十二名

同郡神代村
富津松之助
外七十名

（「三多摩郡引継書」（明治二六年）東京都公文書館蔵）

一五八　東京市市会議員有志の区域変更推進運動に関する往復文書

区域変更運動ニ係ル往復書

今般東京府神奈川県境域変更法律案帝国議会ヘ提出相成候ニ付而ハ吾々市会議員ハ過日来奔走尽力致居候処議事日限切迫之今日ユヘ貴会諸君モ一層御助勢被下貴区内ニ寓居之衆議院諸君ハ勿論他区寄留之議員各位内ニ御知己有之候ハヽ是又併テ御面談之上大至急原案通過候様無限之御尽力相願度且賛否分リ次第市会議場ヘ宛御急報被下度此段得貴意候也

明治二十六年二月廿二日

今村清之助
今井兼輔
中嶋又五郎
佐久間貞一
青木金七
仁杉英
山中隣之助
芳野世経

©神奈川県立公文書館

橋本正隆

緊急事件ニ付特ニ御協議申上度件有之候間乍御苦労明午前八時迄ニ府庁議事堂へ御来車被成下度此段得貴意候也

今井兼輔
青木金七

須藤時一郎殿
松田秀雄殿
芳野世経殿
佐久間貞一殿
仁杉英殿
山中隣之助殿
今村清之助殿

東京府神奈川県境域変更法律案衆議院之特別委員会ハ是非今晩中決定可相成筈左候得ハ必然明廿六日歟又ハ明後廿七日之本議ニ可相上ニ付テハ弥時機切迫今夕ヲ除キ明一日限リ候間過刻不取敢電話ヲ以テ申上候通御区運動委員諸君ニハ尚一層御奮励総出ニテ御区内寄寓之衆議院議員ヲ御訪問之上是非目的貫徹候様御尽力ノ程深ク希望候旨至急御区内運動委員諸君へ御通知被下度候也

二月廿五日

今井兼輔
青木金七

区長殿

追テ已ニ賛成ノ向ニモ尚一層御確メノ上其姓名御報道被下度希望致候也

神奈川県境域変更事件ニ付テハ段々御尽力相成候処本日楠本議長ニモ出庁ニテ院内ノ模様等詳報有之愈々明日之議事ニ上リ候運ビニ相成候由此際ノ張弛ハ大勢ノ分ルヽ処ニ候得バ一層ノ御協力御尽力ヲ要スル儀ニ有之就テハ種々御協議申上度候間万障御差操明二十七日午前第八時迄府庁議事堂へ御来車被成下度此段特ニ得貴意候也

拝啓兼而御尽力相成居候境域変更事件特別委員会ニ於テ明廿七日午前九時開議決定直チニ議場へ報道ノ上日程変更議事ニ上リ候手続ニ相成居候由ニ付テハ此効果ヲ得ルト得サルトハ実ニ運動ノ張弛ニ由ル義ニテ此際ノ一弛ハ頗ル大勢ニ影響ヲ与ヘ候間申迄モ無之事ニハ候へ共尚ホ一層御尽力被成下度此段及御照会候也

明治廿六年二月廿六日

©神奈川県立公文書館

芳野世経
今井兼輔
山中隣之助
青木金七
佐久間貞一
仁杉英
今村清之助
稲田政吉

謹呈今般神奈川県境域変更法律案之義ニ付テハ段々之御尽力相成奉拝謝候明日ハ委員会ニ於テモ決定相成候事ト存候ヘハ院内運動上ノ義ニ付御意見等相伺夫々手配モ仕度為メニ可罷出筈ニ候得共本日ハ御休養ノ事ト存候間御遠慮申上候甚タ恐縮ナガラ明廿七日午前九時当議場へ拝駕ヲ仰度此段得貴意候拝具

二月廿六日

拝啓其御区内寓居之衆議院議員中議者別紙〇印ノ通リニ有之候処開議ノ際不参ニテハ其詮モ無之ニ付明日ハ専ラ承議者ニ対シ出頭之義御迫リ相成度又不参者有之候ハヽ当方ヨリ其区役所電話ヲ以テ申上候間其節ハ即刻其寓所ニ就キ引出シ方御取計相成候様致度此段申上度候也

明治廿六年二月廿六日

今村清之助
今井兼輔
稲田政吉
佐久間貞一
青木金七
仁杉英
山中隣之助
芳野世経

各区長宛
各区会議長宛

実業同志会
事務所　愛宕下町二丁目五番地

松田源五郎
原亮三郎
中沢彦吉

©神奈川県立公文書館

牛場卓蔵
小坂善之助
由雄与三平
北岡文兵衛
今井清志
仁滝清雄
佐藤里治

電報

昨夜一投渡木払ラハレタリ何者ノ仕業ナルヤ不明今水仕掛ケ中

二月廿七日　午前第八時三十分八王子発

（羽村八王子間ハ電話）

西多摩郡西多摩村羽村
東京府第二課出張所
技手　二木貢

東京府第二課　御中

二月廿七日　午前第七時四谷大木戸ニ於ケル
水量　歩板下　壱尺五寸減

但前日迄ハ平水量ナリシヲ一投渡木取払ノ為メ水ノ深サ一尺五寸ヲ減シタルナリ

前書ノ通唯今市参事会ヘ報告有之候ニ付不取敢供御参考候也

明治廿六年二月廿七日

東京市会議員有志者

拝啓御清康奉賀候陳者今回政府ヨリ議会ヘ提出相成候東京府神奈川県境域変更ニ関スル法律案衆議院可決之上ハ直チニ御院ヘ回送可相成筈然ルニ本日一日ニ迫リ居候得共是非御院可決議了相成候様仕度本案之必要ナル今更喋々要セサル儀ニ有之何分ニモ御尽力ニテ好結果ヲ得候様切望之至ニ御座候右得御意度匆々敬白

明治廿六年二月廿八日

東京市会有志者惣代
何誰

貴族院議員
何誰殿

拝啓御清康奉賀候陳者今般政府ヨリ議会ニ提出相成候東京府神奈川

©神奈川県立公文書館

県境域変更ニ関スル法案ハ衆議院ニ於テ議定次第御院之議ニ上リ候
筈然ルニ会期頗ル切迫致居リ候間是非共本日ヲ以テ御院ニ於テ可決
議了相成候様仕度該案ノ府下人民ニ対シ必要ナルハ勿論宮内省御用
ニモ相成居リ殊ニ上水沿岸数十ケ村用水等ノ関係モ有之是等ノ事ハ
今更喋々ヲ要セサル儀ト存候格別之御尽力ヲ以テ速ニ決了好結果ヲ
得候様切望之至ニ御座候右得御意候匆々頓首

二月廿八日

此分ハ華族殿ヘ差出候ナリ

東京府神奈川県境域変更法律案ニ対スル参考書調製候ニ付一本供電
覧候匆々拝具

二月二十二日

衆議院議員添書（二百九十九通）

（「三多摩郡引継書」（明治二六年）東京都公文書館蔵）

一五九　多摩三郡と東京府の関係についての北多摩郡有志者の口話

〔北多摩郡有志者口話〕

交　通

三多摩郡ノ道路ハ悉ク東京ヘ通シ横浜ヘノ通路ハ別ニ之ナシ

水　利

多摩川本流涸渇ニ際シテハ往々田養水ニモ困難ヲ告クルコトアリ此
時ニ方リ三多摩郡ニシテ東京府ノ管轄ニ属シ居ラハ直チニ処分ヲ行
ヒ得ヘキモ神奈川県ノ管轄ナルトキハ両庁ノ間ニ往復照会ヲナサヽ
ルヘカラス又三多摩郡民ニ於テ多摩川ニ関スル府知事ヘノ出願等ハ
尽ク神奈川県ヲ経由セサルヘカラサル等ノ不便アリ

衛　生

上水ハ東京府民ノ飲用ニ供スルモノナルヲ以テ充分之カ取締ヲ為サ
ヽルヘカラスト雖モ三多摩郡ニシテ神奈川県ノ管轄ニ属スル以上ハ
府知事随時ニ令達ヲ発シテ取締ヲ為ス能ハス

警　察

三多摩郡ニ変事アル場合ニ際シ神奈川県官ハ鉄道ヲ利用シ東京ヲ経
テ三多摩郡ニ赴ク故警戒其他十分行届カサルノ不便アリ

商工業

米麦薪炭ヲ除クノ外ハ東京トノ取引頗ル多シ就中南西多摩ノ織物若
クハ材木ノ如キハ尤モ東京ト取引多ク要之商工業ノ大部分ノ取引ハ
東京ニアリ

右ノ理由ナルヲ以テ三多摩郡民十中ノ八九ハ東京府管轄ニ属センコ

©神奈川県立公文書館

トヲ望メリ

但前記理由ノ外尚ホ挙クヘキ事項数多アリト雖モ一々茲ニ掲ケス

（「三多摩郡引継書」（明治二六年）東京都公文書館蔵）

（注）立教大学所蔵資料に同様のものがある。

140　神奈川県県会議員の境域変更反対理由書

東京府神奈川県境域変更ニ関スル法律案ニ反対スル理由書

今般政府ヨリ帝国議会ヘ提出セラレタル西多摩南多摩北多摩三郡ヲ分割シテ東京府管下ニ属セシムル法律案ハ事甚ダ唐突ニ出テ我県下人民ノ驚愕スル所ナルコトハ勿論三郡人民ニ在リテハ特ニ一大驚慌ヲ来セリ想フニ此案ノ如キ我賢明ナル帝国議会諸公ノ排斥セラル、所ナルコトヲ信スト雖トモ我県人民ニ於テハ深淵ニ臨ミ薄氷ヲ踏ムノ感アリ故ニ謹テ理由ヲ具シ高明ノ省察ヲ仰ク実ニ已ムヲ得サルナリ

抑三郡ノ地タル維新以降已ニ二十余年神奈川県ノ管轄ニ属シタルヲ以テ全県其人情風俗ヲ同フシ特ニ我県唯一ノ物産タル繭生糸ノ如キ南多摩郡八王子町ヲ以テ中心市場トナスヲ以テ県下多数人民ノ輻湊スル所トナリ其関係スル所実ニ軽カラス今一朝之レヲ分割シテ東京府ニ属センカ実ニ人情ニ戻ルノ甚シキト謂ハサルヲ得ス且ツ多摩三郡ハ実ニ神奈川県財源ノ府ナレハ若シ三郡ヲ分割セハ神奈川県ハ其財源ヲ失ヒ自治ノ基本ヲ欠キ而シテ三郡ハ東京府ニ属スルヲ以テ過重ノ負担ヲ受ケサル可ラス〔別表参看（注）〕我県人民及ヒ三郡人民ノ驚愕措ク所ヲ知ラス之レ該法案ニ反対セサルヲ得サル所以ナリ

本法案ノ主張スル所ハ東京市水道ノ為メニスルニアリ夫レ水源ヲ涵養シ若クハ汚濁ノ流入ヲ防止スルカ如キ敢テ之ヲ其管轄ニ属セシメサルモ其途ナキニアラズ然ルニ単ニ此一事ヲ以テ県下九十万衆ノ幸福ヲ犠牲ニセントスルカ如キハ不条理モ亦甚シト謂ハサル可ラス

之ヲ要スルニ本法案ハ縦令幾分東京府ニ利スル所アル可シト雖トモ其神奈川県ニ害スルコト実ニ甚シキモノト謂ハサル可ラス

故ニ願クハ公平ノ議ヲ以テ速カニ該法案ヲ否決セラレンコト県民等希望ノ至リニ甚ヘス敬白

明治二十六年二月二十六日

神奈川県会議員

土方房五郎　瀬沼伊兵衛
小林儀兵衛　内山安兵衛
井上吉之助　木崎雄蔵
武藤佐太郎　天野藤三

©神奈川県立公文書館

岡部芳太郎　水島保太郎
小島貞雄　曽根田重兵衛
小泉太一郎　吉田清太郎
飯田快三　長谷川豊吉
添田知義　今井徳左衛門
原文次郎　小沢衡平
鈴木林蔵　鈴木稲之輔
河田周蔵　黒部与八
穴沢与十郎　小泉穀右衛門
平戸清八　脇沢金次郎
森市左衛門　長谷川亀楽
難波惣平　長崎俊信
永野茂　渡辺庄次郎
長谷川彦八　大谷嘉兵衛
志村大輔　来栖壮兵衛
金子小左衛門　中山太郎左衛門
森鑅三郎　石川養造
佐藤政吉　増田増蔵
大貫弥七　左右田金作
小沢勝蔵　露木要之助
会田八十八　石井八郎右衛門

（飯田助丸氏蔵）

（注）別表欠。立教大学所蔵資料に同様のものがある。

一六一　多摩三郡町村長の境域変更反対陳情書

泣血百拝貴衆両院議員諸君ニ哀告ス

今回政府ハ神奈川県下西南北多摩三郡ヲ分割シテ東京府ニ属セシムルノ法案ヲ提出セリ而シテ該法案ノ利害ニ付テハ両地人民ニ於テ見ル所ヲ異ニシ各其便否ヲ囂々シテ止マザルコト諸君ノ熟知スル所ナラン抑モ一府県ノ管轄区域ニ付テハ冥々ノ間ニ至要ノ関係ヲ有シ利害便否ノ分容易ニ判定シ難キモノアリ某等親シク三郡ニ住居シ多年神奈川県下ニ立チシニ拘ラズ一朝風土人情ヲ異ニスル東京府ニ属スルニ至リテハ種々重大ナル困難ナキヲ得ズ熟ラ該法案ヲ閲スレバ其主要ノ理由ハ東京市水道ニ関スト抑モ水道ハ東京市全体ノ飲料ニ供スルモノニテ而シテ東京ハ実ニ帝国ノ首都宮城ノ在ル所之ヲ他府県ト同一視スベカラザルコト某等之レヲ知ラザルニアラズ豈ニ自己軽微ノ利害ニ拘泥シ以テ帝都ノ休戚ヲ顧ミザルモノナランヤ然リト雖

©神奈川県立公文書館

モ今日ノ事実ニ言フニ忍ビザルモノアリ夫レ該法案ヤ固ヨリ東京市ニ若干ノ利便之レナキニアラザルベシ然レトモ是ガ為ニハ三郡人民ノ利害ハ毫モ之レヲ顧ミズシテ可ナル乎水道ニ関スル適当ノ処置ハ該法案ヲ措テ他ニ途ナキモノナル乎嚮々泣訴スル郡民ノ困難ヲ顧ミズシテ一刀両断ノ処置ニ出ルコト或ハ止ムヲ得ザルモノアラン三郡人民ト雖モ亦涙ヲ呑ンデ之レヲ忍バザル可カラザル事アラン雖然如斯ハ周密ノ調査ヲ尽スモ他ニ適当ノ途ナキ時ニシテ始メテ然ルモノナラザルベカラズ然ルニ今ヤ杜撰粗漏ノ方法ヲ専決シ深ク三郡人民ノ利害ヲ考査セズ隠密ノ間ニ計画シ議院ノ閉期切迫シテ議事繁劇ナルヲ窺ヒ突然提出スル如キニ至リテハ陰険ニ非ラズンバ軽躁ノ極ト云ハザル可カラズ嗚呼公平ナル議員諸君幸ニ好在スルコトナクンバ三郡ノ人民ハ急遽狼狽殆ント為ス所ヲ知ラザラントス抑モ又危哉某等今日マデ各町村長ノ職ヲ勤メ管下行政ノ事ニ従ヒシモ郡民ガ該法案ニ激昂スルノ甚ダシキヲ目撃シ若シ不幸ニシテ該法案ノ通過スルコトアリテ将来郡下ニ起ルベキ悲惨紛擾ヲ想像スル時ハ到底坐シテ行政ノ務ヲ尽スコト能ハズ遂ニ各自其職ヲ辞退シ以テ府下ニ集リ諸君ニ泣告スルノ止ムヲ得ザルニ至レリ公明ナル議員諸君何卒某等人民ノ不幸ヲ愍察シ該法案否決ノ運ニ至ランコトヲ懇願ニ堪ヘズ

神奈川県南多摩郡

八王子町長　大平安三郎
小宮村長　立川周蔵
加住村長　青木鎮卿
川口村長　阪本登名蔵
元八王子村助役　青木松兵衛
浅川村長　小林儀兵衛
横山村長　林藤蔵
由井村助役　尾川太吉
堺村長　青木芳斎
忠生村長　加藤茂

同県北多摩郡

砧村長　飯島福太郎
三ッ木村長　比留間邦之助
谷保村長　佐伯幸四郎

同県西多摩郡

成木村長　木崎雄三
小曽木村長　宿谷磯吉
青梅町長　滝上悦蔵
増戸村長　清水孫一郎

町田町長　渋谷亀蔵
南村長　松村育太郎
鶴川村長　井上吉之助
柚木村長　大沢信重
多摩村長　富沢政賢
稲城村長　原田所左衛門
七生村長　土方篠三郎
桑田村長　斎藤文太郎
日野宿長　中島伝之助
恩方村長　井橋弁重

立川村長　井上善次郎
狛江村長　小川清平

五日市町長　馬場勘左衛門
西秋留村長　瀬沼安兵衛
東秋留村長　久保島源十郎
草花村長　鹽野正作

©神奈川県立公文書館